

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
30-79	小学校	国語科	書写	3
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2 東書	書写 301	新しい書写 三		

1. 編修の基本方針

豊かな学びが、未来を拓く^{ひら}

この教科書では、どうすれば文字が整うのかを考え、整え方を発見し、自分の文字に生かすという課題解決の過程を通して、生涯にわたって活用できる「書く力」を育みます。

「書くことが楽しい」「自分の文字をよりよくしたい」そんな思いを膨らませて友達と学び合いながら、書写の学びを豊かに広げていけるように、そして、未来を切り拓く力をつけていけるように、私たちはそう願って編修しました。



特色

1

文字の整え方が分かる

文字を正しく整えて書くために必要な知識・技能を「書写のかぎ」と名付けて、「何を学ぶか」を明確にしました。また、基礎・基本を確実に身につけられるように学習過程を構成し、「どのように学ぶか」を明確にしました。これによって、書写で育成すべき資質・能力を整理しています。

特色

2

日常の文字に生きる

学んだ「書写のかぎ」は、日常生活の中で書く文字に生かすことで初めて、生きて働く力となります。「書写のかぎ」を活用していく場面を、基本単元内と活用を主とする単元との2段階で設定し、確実な定着を図るようにしました。

特色

3

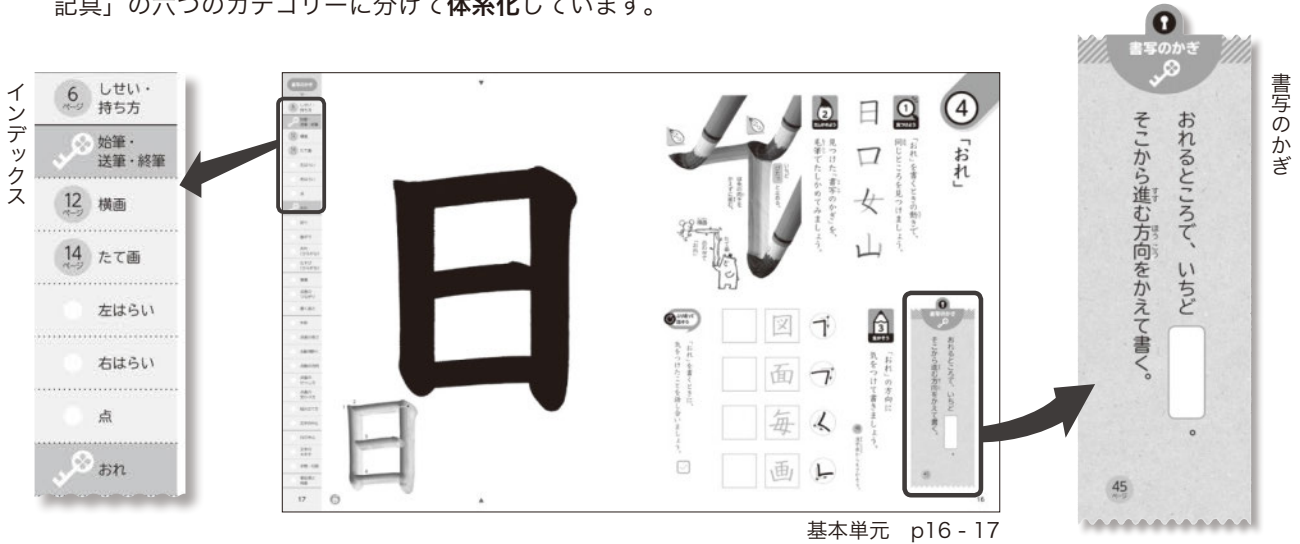
書くことが楽しい

分かるようになること、できるようになることは、児童にとって大きな喜びです。文字を正しく整えて書くための書き方が分かり、生活の中で書く文字に生かすことで、自分の文字が成長した喜びを実感できるように編修しました。

1 文字の整え方が分かる

◆「何を学ぶか」を明確にした「書写のかぎ」

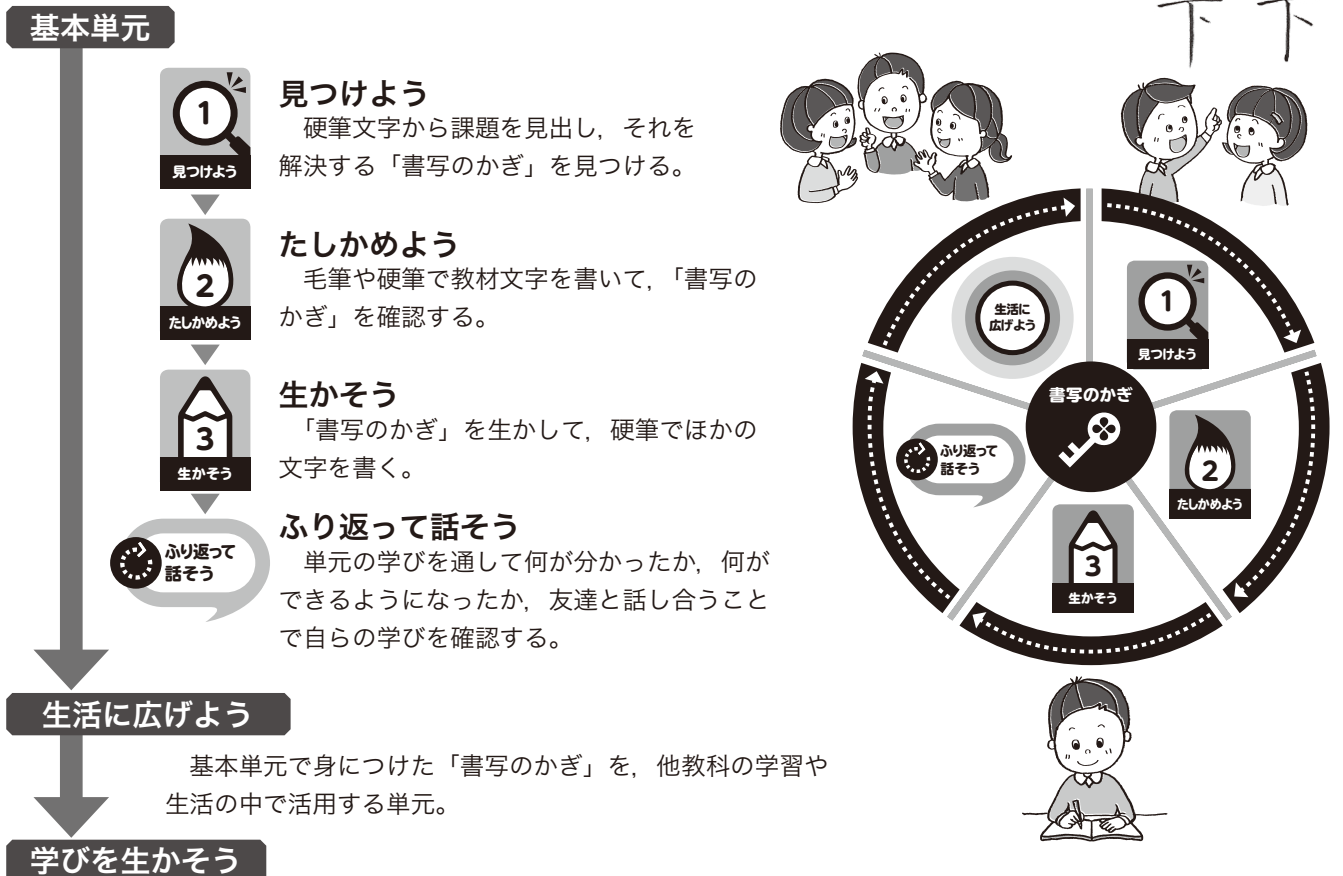
- 書写のねらいである「正しく整った文字を書く」ために必要な知識・技能を「書写のかぎ」と名付けました。小学校6年間で学ぶことを系統的に整理し、学年段階を踏まえて各単元に配置しました。
- 第3学年以上には、小学校書写で学習する要素を一覧にしたインデックスがついていて、当該単元の重点学習事項がひと目で分かるようになっています。「姿勢・持ち方」「点画の書き方」「書くときの動き」「字形」「配列」「筆記具」の六つのカテゴリーに分けて体系化しています。



基本単元 p16 - 17

◆「どのように学ぶか」を明確にした学習過程

「書写のかぎ」を核として単元を展開しています。



学年のまとめ単元。1年間の学習を振り返り、学んできた「書写のかぎ」を使って、自ら課題を設定して書いたり、生活の中の場面で活用したりする。

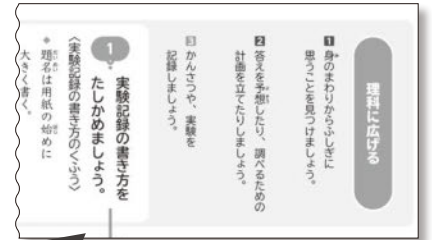
特色

2

日常の文字に 生きる

◆ 実の場に生かす「生活に広げよう」

- 基本単元で身につけた知識・技能を生活に生かす単元として、「生活に広げよう」を設けました。国語や他教科の学習、生活の中で扱う書式や内容を題材に年間3か所設定し、第3学年では、原稿用紙、実験記録、はがきを取り上げています。
- ページ上段に、他教科等の学習活動の全体を示し、その中から書写の力を生かす場面を取り上げています。児童にとって現実に近い場を設定することで、書写の学びを日常の文字に生かす意識を高められるよう工夫しました。



生活に広げよう「実験したことを記録しよう」p26 - 27



理科

書写の力を活用する具体的な場面や書式を取り上げて、関連する教科名をマークとともに示しました。

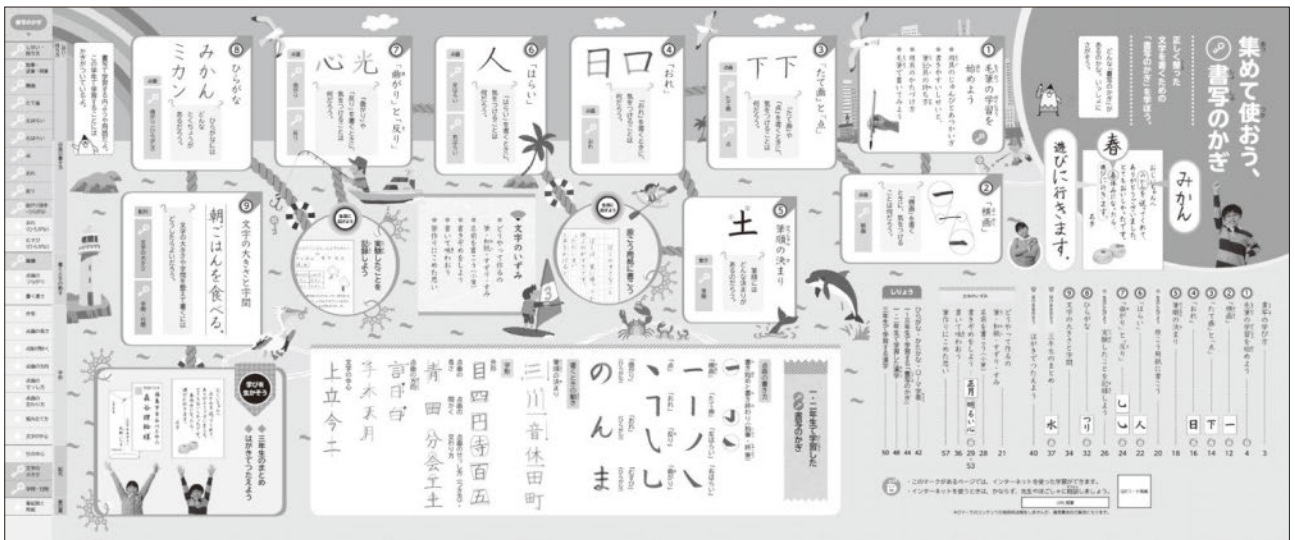
特色

3

書くことが 楽しい

◆ 「分かった」「書けた」から広がる楽しさ

- 教科書を開いた最初のページは、1年間の学びを見通すイラストマップ「集めて使おう、『書写のかぎ』」です。「『書写のかぎ』を集める旅」をテーマに、スタート地点には課題のある文字例、ゴール地点の学年まとめの単元にはスタート時の文字が整った例を示すことで、1年間かけて各単元の「書写のかぎ」を集めると自分の文字がもっとよくなるというイメージを持たせて意欲づけを図っています。
- 「書写のかぎ」を核とした単元構成で、「整った文字を書くにはどうしたらいいのか分かった」「自分の文字がよりよくなった」という実感を持ち、「もっと書きたい」という意欲につながるよう工夫しました。



「集めて使おう、『書写のかぎ』」表紙裏 - p2

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所(頁)
	●書写の学習を通じて幅広い知識・教養が身につくよう、教材の題材や内容に配慮しました。(第1号)	全体
「集めて使おう、『書写のかぎ』」	●学年冒頭で年間の見通しを持つことで、自主・自律の精神を養うよう配慮しました。(第2号)	表紙裏 ～ 2
「書写の学び方」、学習過程	●学び方を理解することで、主体的に学習に取り組む態度を養うよう工夫しました。(第2号) ●単元末の振り返り「ふり返って話そう」や、互いの文字や書く様子を見合う児童の写真などから、協働的に学ぶ態度を養うよう工夫しました。(第3号)	3 3・38
「毛筆の学習を始めよう」	●児童の健康管理上から姿勢・執筆法を重視し、写真と解説を示しました。各学年で繰り返し掲載し、定着を図っています。(第1号) ●書く姿勢や筆記具の持ち方、用具の扱い方について各学年で取り上げ、学習の基盤作りと学習習慣の形成に寄与しています。(第2号)	6～7 4～8
教材文字、題材	●教材文字や題材は以下のような観点を重視して選定しました。豊かな情操と道徳心を培う(第1号)、勤労を尊ぶ態度を養う(第2号)、平等と協働を大切にすることを養う(第3号)、生命尊重と環境保護に寄与する態度を養う(第4号)、伝統・文化の尊重と自国・他国の平和を願う態度を養う(第5号)。	全体
「生活に広げよう」 「学びを生かそう」	●実験記録を書く活動を通して、身の回りの事象に興味・関心を持って探究する態度を養うよう工夫しました。(第1号) ●読み手のことを考えて表現する力がつくように、読みやすさに配慮したはがきの書き方について教材化しました。(第3号)	26～27 40～41
「文字のいずみ」	●筆・和紙・硯・墨の作り方や筆作りに従事する人へのインタビューなどを取り上げて、書写に関連する伝統産業について興味・関心を持てるように工夫しました。(第5号・第2号) ●書き初めの教材を設けて、日本の伝統文化への関心が高まるよう工夫しました。(第5号) ●伝統的な言語文化に関連する文章をなぞり書きする教材を設けて、書くことで伝統や文化に触れられるよう配慮しました。(第5号)	21・57 29～31・53～56 36
資料	●ローマ字を通して、外国の文字文化への興味・関心が高まるよう工夫しました。(第5号)	43

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

1. 全ての児童が使いやすい紙面への配慮

① ユニバーサルデザインへの取り組み

- 左利きの児童の学習しやすさを考慮して、原則として教材文字を上、書き込み欄を下に配置しました。右利き、左利きどちらの場合でも教材文字をしっかりと見ながら書くことができるように配慮しています。
- 情報を整理して、だいたいのことがひと目で分かる紙面になるよう工夫しています。

② 特別支援教育への配慮

- 特別支援教育の専門家の校閲を受け、全ページにわたって検証を行っています。
- 学習の流れや情報の軽重が分かりやすいレイアウトにし、イラストやキャラクターに使う色の数や分量を抑制することで、児童の集中を妨げないよう配慮しています。
- 文意を理解しやすいように、文節で改行しています。
- 色覚の多様性に配慮し、カラーユニバーサルデザインの観点から、配色およびデザインについて、全ページにわたって専門家による検証を行っています。
- 弱視の児童の学習のために、教科書と同じ内容の拡大教科書を発行します。

③ 人権上の配慮

- 作例や写真・イラストなどに登場する人物について、性別による役割の固定化や人数の偏りがないように配慮しました。
- 社会の多様性を鑑み、児童の家庭環境に関わる表現にも十分配慮しました。

④ 造本上の工夫

- AB判のワイドな紙面を活用して、図版を大きくして資料性を高め、書き込み欄を充実させています。
- 巻頭折込「書写の学び方」を開いておくと、単元のページと同時に見ることができるので、学び方を繰り返し確認することができます。
- 第3学年以上では、6年間で学習する書写の内容を一覧にしたインデックスを、単元の左端に設けています。
- 毛筆教材のあるページは、余白を含めて半紙の縦横比率に合わせてあるので、半紙での配列の参考になります。また、書き初め教材は半紙原寸大と書き初め用紙原寸大（巻末折込）の2種類を掲載しています。

2. 今日の課題への取り組み

① 授業支援と教員の負担軽減への取り組み

- 何を学ぶか（「書写のかぎ」）、どのように学ぶか（「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」「振り返って話そう」の学習過程）ということを明確かつ丁寧に示しているため、無理なく指導ができます。
- 教科書上のQRコードやURLからインターネットを活用して、用具の準備や後片付け、毛筆教材文字の運筆などの映像を見ることができます。一斉に映像を見せながら個別指導を行うなど、**授業の効率化**に役立つよう工夫しています。
- 教師用指導書として、豊富な映像や資料（上述の映像を含む）を収録したDVD-ROMやワークシートの作成を予定しており、教材研究や授業の準備を効率的に行えるように工夫しています。

② カリキュラム・マネジメントへの取り組み

- 基本単元は、毛筆を使った学習との関連を考慮しつつ、硬筆で学習する「見つけよう」「生かそう」をそれぞれ10分程度の**短時間学習**として扱うことも可能です。
- 「生活に広げよう」は、国語や他教科で取り上げられる言語活動を題材としているので、関連付けたり合科的に扱ったりすることが可能です。

③ 道徳教育との関連


- 豊かな情操と道徳心を養うような言葉を、教材として選定しました。
- 対話的な振り返りや学び合いを取り入れた学習活動を通して、互いを尊重し理解を深める態度を養うよう工夫しました。
- はがきを書く活動では、相手意識を持って読みやすく書くことを重視し、相手を思いやる態度を養うよう配慮しました。

④ 教科横断的に取り組む教育課題への対応

情報教育	情報を項目立てて書いたり、絵や表などを使って表したりする活動を通して、情報活用能力を育むように工夫しました。(p26)
国際理解・グローバル教育	ローマ字表を通して、日本語の表記法の一つに外国語と同じ文字を使うものがあることを理解し、他国の文字文化への興味・関心が高まるよう工夫しています。(p43)
キャリア教育	伝統産業である筆・和紙・硯・墨の作り方の紹介や、筆作りに従事する人へのインタビューなどから、いろいろな職業への興味・関心を引き出すよう工夫しました。(p21・57)
環境教育	教材文字に自然や環境に関連する言葉を取り上げています。(p39・53)

3. その他の取り組み

① ICT活用、デジタルコンテンツの充実

- 教科書上のがある単元では、学習に役立つデジタルコンテンツを提供しています。インターネットを使って、用具の準備や後片付け、毛筆教材文字の運筆などの映像を見ることができます。**家庭学習**や**個に応じた指導**にも効果的です。
- 教科書と同じ内容の学習者用デジタル教科書を発行します。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 担当授業時数表)

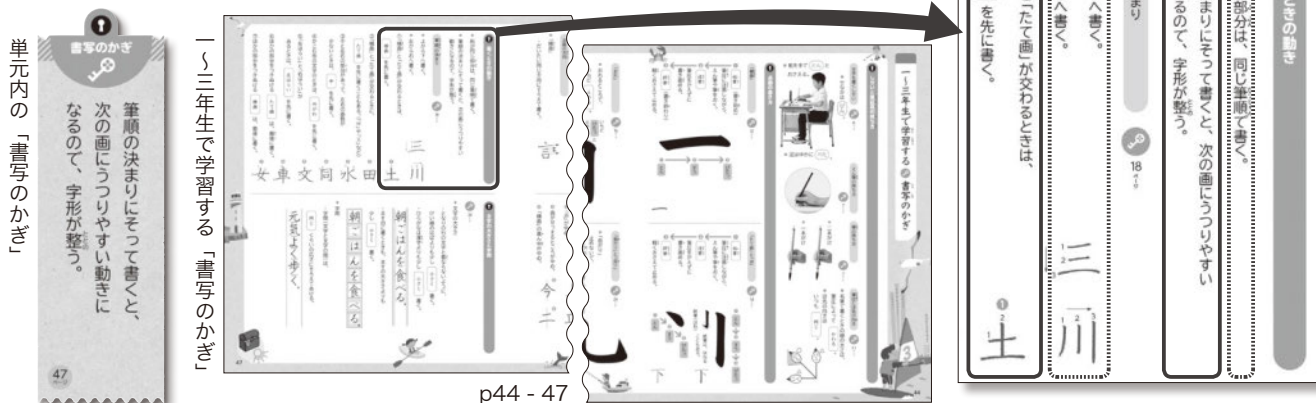
受理番号	学校	教科	種目	学年
30-79	小学校	国語科	書写	3
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2 東書	書写 301	新しい書写 三		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

特色 1 文字の整え方が分かる

1. 習得すべき知識・技能を系統的に配列 「何を学ぶか」

- 単元のねらいを焦点化し、原則として一単元の一つの「書写のかぎ」(文字を正しく整えて書くための知識・技能)を配置しています。
- 巻末資料「一～三年生で学習する『書写のかぎ』」では、第3学年で新しく学習することと、これまでに学習してきたこととを合わせて、カテゴリーごとに分類・整理して示すことで、**学びの系統性・連続性**を意識できるようにしています。



2. 思考力・判断力・表現力を育てる学習過程 「どのように学ぶか」

「書写のかぎ」を核とした課題解決型学習の単元展開です。文字に対してさまざまな見方・考え方を働かせて、教材文字から課題を見出し、解決について考えたり言葉に表出したりする活動を通して、主体的に課題に取り組む態度を養い、思考力・判断力・表現力等を育成します。習得と活用を組み合わせた学習過程になっています。

基本単元

生活に広げよう

学びを生かそう



見つけよう…日常書く硬筆文字から課題を見出し、整った文字にするにはどうしたらよいかを思考し、解決のための「書写のかぎ」を見つける。話し合ったり書いたりして自分の考えを言語化する活動を行う。



たしかめよう…見つけた「書写のかぎ」を使って毛筆や硬筆で書くことで、「書写のかぎ」の内容を確認し、理解を深める。



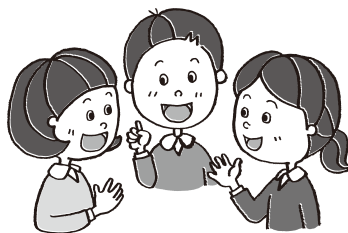
生かそう…「書写のかぎ」がほかの文字にどのように使われているのかを理解して書くことで、定着を図り、日常に広げていく。



ふり返って話そう…単元の学びを通して、どのような知識・技能を身につけたのか、友達と話し合うことで自らの学びを確認する。



基本単元で身につけた「書写のかぎ」を、生活の中で活用する単元。



学年のまとめ単元。1年間の学習を振り返り、学んできた「書写のかぎ」を使って書いたり、生活の中の場面で活用したりする。



3. 「主体的・対話的で深い学び」に導く工夫

①見通しと振り返りの充実

- 冒頭のイラストマップ「集めて使おう、『書写のかぎ』」には、前学年で学習した「書写のかぎ」も併せて掲載しました。これまでの学びを踏まえたうえで、新しく始まる**1年間の見通し**を持てるよう工夫しました。
- 単元末の振り返り「ふり返って話そう」は、個別の自己評価にとどまらず、友達や先生との対話を通して**深まりのある評価**ができるように導いています。知識・技能の定着に関する評価だけでなく、「どのように学んだのか」「学んだことをどう生かすのか」といった点も観点に含めています。
- 学年まとめ単元「学びを生かそう」は、1年間の学びを振り返り、自ら課題設定や題材選びを行い、学んできた「書写のかぎ」をどう使うのかといった解決の過程も考えて、主体的に取り組めるような展開としています。振り返りでは、友達や自分自身と対話することで、1年間の学びを自らの中に落とし込めるように導いています。

②「書写の学び方」を学ぶ

- 「書写の学び方」は**学習過程**を分かりやすく図解したものです。児童自身が書写の学び方を知って学習のねらいを理解することで、主体的に学ぼうとする態度を育みます。
- 「毛筆の学習を始めよう」では、第3学年から始まる毛筆を使った学習について、その意義を知ること、毛筆で書いて学んだことを硬筆の文字に生かそうとする態度を養うよう工夫しました。

③協働的な学びの姿

書いた文字や書く動きを見合ったり話し合いをしたりする活動を、イラストや写真で具体的に示して、学習過程に取り入れることを促しています。個の学習にとどまらず、**協働的に学ぶ**ことで、学びの質が高まります。

④書写で学習する用語と言語活動の充実

書写で学習する用語をインデックスとして常に示すことで定着を図り、話し合いなどの**言語活動が充実**するよう工夫しています。

特色

2

日常の文字に 生きる

① 実の場に生きる力を育てる単元配列と「生活に広げよう」

基礎・基本となる知識・技能を習得する基本単元を数単元学習した後に、実の場に活用する単元「生活に広げよう」を配置し、習得と活用を効果的に組み合わせながら、書写の力の定着を図るよう工夫しています。

「生活に広げよう」単元一覧

	日常生活における「書くこと」での活用	国語や他教科の学習での活用	相手に気持ちを伝えるコミュニケーションでの活用
1年	にっきをかこう 国語 /なまえをかこう/できるようになったよ 生活		
2年	れんらくちょうを書こう	かんさつしたことを書こう 生活	「ありがとう」をつたえよう
3年	原こう用紙に書こう	実験したことを記録しよう 理科	はがきでつたえよう
4年	ノートを書こう	調べたことを伝える新聞を作ろう 社会	お礼の気持ちを手紙で伝えよう
5年	ノートを書こう	委員会活動を伝えるリーフレットを作ろう 国語	六年生におくる言葉を書こう
6年	インタビューのメモを取ろう	発表のためのポスターを書こう 総合的な学習 英語 社会	書写展覧会を開こう

② 国語との連携

- 「生活に広げよう」などの教材には、国語の**言語活動**で用いられる書式を積極的に取り入れました。国語での学習事項に配慮した内容となっているので、国語の授業と合わせた効率的な指導も可能です。
- 「書いて味わおう」と学年のまとめ単元「学びを生かそう 三年生のまとめ」の硬筆教材文字は、国語教科書に掲載されている文章を取り上げて、書写の学びを国語の中でも生かせるように工夫しました。「書いて味わおう」では俳句、「学びを生かそう」では「モチモチの木」(物語)を取り上げています。

特色
3

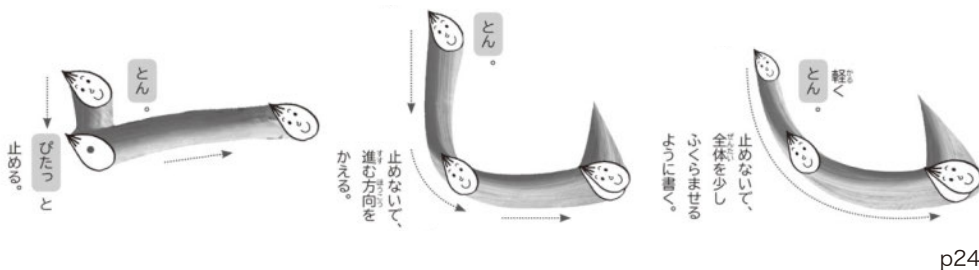
書くことが 楽しい

① 次の学びに向かう意欲を育てる学習サイクル

「整った文字を書くにはどうすればいいのか分かった」「自分の文字がよりよくなった」という実感が、次の学びに向かう原動力になります。習得すべき知識・技能を「書写のかぎ」として具体的な文言で明確に表現し、実の場での活用を組み込んだ学習過程を組織することで、「さらに学びたい」「ふだん書くときに生かしたい」という意欲を引き出すよう工夫しました。学びの充実が、書く楽しさにつながります。

② 興味・関心を引き出す学び方の工夫

- 文字による丁寧な解説だけでなく、図解やイラスト、写真、朱墨文字などを取り入れて、児童の内容理解を助け、興味・関心を引き出すように工夫しました。筆順を表す色や、毛筆の穂先の向きを表す図など、学年を超えて使用されるものは統一を図る配慮をしています。
- 点画を書くときのリズムや動きの特徴を、「とん」「すう」「ぴたっ」などの擬態語を使って言語化し、分かりやすく示しました。



③ 知的好奇心を刺激する文字文化单元「文字のいずみ」

我が国の伝統や文化の中で育まれてきた文字文化を、文字そのものと、文字を書くこととの二つの側面から取り上げた单元です。1～2ページの単元のほかに、適宜コーナーを設けています。伝統を引き継ぎ、これからの文字文化の担い手となる児童が、文字の持つ力を感じるきっかけとなるよう工夫しました。

- 伝統的な文字文化…「書きぞめをしよう」「名前を書こう」
- 古典作品のなぞり書き…「書いて味わおう」(俳句)
- 書写の用具とそこに込められた人々の思いを伝える写真資料…「どうやって作るの 筆・和紙・すずり・すみ」「筆作りにこめた思い」

検討の観点と内容の特色

観 点	特 色
1, 教育基本法への対応	<ul style="list-style-type: none"> ● 書写学習を通して、幅広い知識と教養を身につけるとともに、自らの文字を正しく整ったものにしていく課題解決の過程で、自主・自律の精神を養えるよう編修しました。 ● 文字文化单元「文字のいずみ」を通して、伝統と文化を尊重する態度を養うよう配慮しました。
2, 学習指導要領との関連	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習指導要領の書写に関する事項をもれなく指導し、ねらいを達成できるよう、単元を組織・配列しています。
3, 内容・系統・配列	
① 単元の系統性	<ul style="list-style-type: none"> ● 書写学習の基礎・基本的な事項を確実に習得できるよう、学年の発達段階に応じて重点化しながら系統的に単元を配列し、螺旋的に学習できるように工夫しています。 ● 単元ごとに原則として一つの「書写のかぎ」を置き、単元名にも指導事項を端的に示すことで、学習のねらいを明確化・焦点化しています。 ● 書写の学習要素を系統的に分類・整理してインデックスに示すことで、児童自身が系統性を意識した学習ができるよう工夫しています。

② 硬筆・毛筆の関連指導	<ul style="list-style-type: none"> ● 単元は、①硬筆で「書写のかぎ」（文字を整えて書くための知識・技能）を発見し課題を共有する → ②毛筆で大きく書くことで確認する → ③硬筆で別の文字を書くことで定着を図る → ④振り返るという展開で、毛筆を使用する学習が硬筆で書く力の基礎となるように構成しています。 ● 毛筆教材と硬筆教材との配分を考慮し適切な順で単元を配列することで、硬筆・毛筆を効果的に関連させた指導ができるようになっていきます。
③ 2・3学期や複式指導への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 単元の配列及び時間配当は、3学期制、2学期制のいずれにも対応できるよう配慮しています。 ● 複式指導に配慮して、学年が異なっても、毛筆を使った学習が同時期になるように単元配列しました。用具の準備等の負担を軽減するように努めました。

4, 教材の選定	
① 教材の程度・分量	<ul style="list-style-type: none"> ● 学年の配當時数に照らして適切な単元数、分量で、硬筆と毛筆の学習ができるようにしています。 ● 硬筆文字・毛筆文字ともに、児童の学びやすさを考慮した簡明な筆使いとしています。学習指導要領の学年別漢字配当表の字形に拠って、硬筆文字と毛筆文字の整合性を図っています。書風は健康的で明るく、濃度や筆圧にも配慮して執筆しています。 ● 教材として、各単元の指導事項に適した字形を持つ文字であり、かつ、学年段階に応じた語彙を選んでいます。 ● 図解やイラスト、写真、朱墨文字などを取り入れて、児童の内容理解の助けとなるよう工夫しています。
② 国語科国語や他教科の学習、学校生活との関連	<ul style="list-style-type: none"> ● 「生活に広げよう」において、原稿用紙や実験記録、はがきの書き方など、国語と連動させた言語活動を取り上げ、生活に活用できる書写力を育成するようにしています。 ● 日常生活の中では横書きが多い現状に考慮し、他教科の学習や生活の中で使う例として、横書きの教材も取り入れています。(p26, 35) ● 国語や他教科の学習と連動している教材には、関連マークをつけて意識づけを図っています。(p20, 26 など) ● ローマ字表は、英語教科書で使われる幅の4線を採用し、英語教科書用に開発されたフォントに近い字形の手書き文字にして、児童の学習しやすさに考慮しています。(p43) ● 当該学年の漢字を提出する際は読み仮名や筆順を示し、国語の学習時期による支障がないよう配慮しました。

5, 特別支援教育やカラーユニバーサルデザインなどへの配慮	
① 特別な支援が必要な児童への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 特別支援教育の専門家の校閲を受け、全ページにわたって検証を行っています。 ● 文意を理解しやすいように、文節で改行しています。 ● 学習に集中し、紙面の中のだいたいな情報に着目できるように、レイアウトや色使いを工夫しました。
② カラーユニバーサルデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ● 色覚の多様性に配慮し、カラーユニバーサルデザインの観点から、配色およびデザインについて、全ページにわたって専門家による検証を行っています。
③ 拡大教科書の発行	<ul style="list-style-type: none"> ● 弱視の児童の学習のために、教科書と同じ内容の拡大教科書を発行します。

6, 表記・表現, 印刷・造本に関する配慮	
① 表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ● 文章は的確・簡潔で、学年段階に応じて分かりやすい表現をしています。表記や用語は統一した基準を設けています。 ● 使用する漢字は、原則として当該学年以下とし、漢字の学習時期に配慮して、当該学年の漢字には振り仮名をつけています。
② 活字	<ul style="list-style-type: none"> ● 手書きの硬筆文字の筆使い・字形に準拠し、国語・書写の学習に適した教科書体を独自に開発・使用しています。 ● 教科書体以外は、振り仮名など小さい文字でも読みやすいユニバーサルデザインフォントを使用しています。
③ 判型	<ul style="list-style-type: none"> ● AB判のワイドな紙面を活用して、図版を大きくして資料性を高め、書き込み欄を充実させています。 ● 毛筆教材文字のページは、余白を含めて半紙の縦横比率に合わせてあるので、半紙での配列の参考になります。128%拡大すると半紙の原寸大になります。
④ 印刷・造本	<ul style="list-style-type: none"> ● 硬筆文字や毛筆文字は、印刷の濃度や色味を調整して、より本物に近く、見やすいものになっています。印刷は鮮明で正確です。 ● 用紙は、鉛筆で書き込みがしやすく、十分な強度を持ちながら軽量なものを開発しました。 ● 表紙は、見開きの状態を維持しやすい紙に耐久性を高める加工をし、製本を堅牢にしました。 ● 環境に配慮し、再生紙や植物油インキを使用しています。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容			該当箇所（頁）	配当時数	3 学期制	2 学期制
	(ア) 文字の組み立て方を理解し、形を整えて書くこと。	(イ) 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。	(ウ) 毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書くこと。				
集めて使おう、「書写のかぎ」				表紙裏 ～ 2			
書写の学び方				3			
① 毛筆の学習を始めよう					2	12	17
● 用具のじゅんぴとあつかい方				4 ～ 11			
● 書きやすいしせいと、筆記具の持ち方							
● 用具のかたづけ方							
● 毛筆で書いてみよう			○				
② 「横画」〈一〉	○		○	12 ～ 13	3		
③ 「たて画」と「点」〈下〉	○		○	14 ～ 15	3		
④ 「おれ」〈日〉	○		○	16 ～ 17	4		
⑤ 筆順のきまり	○			18 ～ 19	1		
【生活に広げよう】原こう用紙に書こう	○	○		20	1		
【文字のいずみ】どうやって作るの 筆・和紙・すずり・すみ				21			
⑥ 「はらい」〈人〉	○		○	22 ～ 23	3	14	18
⑦ 「曲がり」と「反り」	○		○	24 ～ 25	4		
【生活に広げよう】実験したことを記録しよう	○	○		26 ～ 27	2		
【文字のいずみ】名前を書こう（小筆）	○	○	○	28	3		
【文字のいずみ】書きぞめをしよう〈正月〉〈明るい心〉	○	○	○	29～31・53～56			
⑧ ひらがな〈つり〉	○		○	32 ～ 33	3	9	
⑨ 文字の大きさと字間		○		34 ～ 35	1		
【文字のいずみ】書いて味わおう（俳句）				36			
【学びを生かそう】三年生のまとめ〈水〉	○	○	○	37 ～ 39	3		
【学びを生かそう】はがきで伝えよう	○	○		40 ～ 41	2		
資料	ひらがな・かたかな・ローマ字表			42 ～ 43			
	一～三年生で学習する「書写のかぎ」			44 ～ 47			
	一・二年生で学習した漢字			48 ～ 49			
	三年生で学習する漢字			50 ～ 52			
【学びを生かそう】筆作りにこめた思い				57			
					35		